

橋本功教授業績一覧

(昭和56年10月助教授人文学部，平成2年4月教授人文学部，平成12年4月—平成15年3月教授教育システム研究開発センター，平成15年4月教授人文学部，平成20年9月退職)

① 著書（6編，単著3編 共著3編）

- 1) 『英語史入門』（慶應義塾大学出版会，平成17年8月，228頁）〔単著〕
- 2) 『大学におけるFD・SD（教員・職員資質開発）の制度化と質的保証に関する総合的研究』（広島大学高等教育研究開発センター，平成17年3月，232頁）〔共著〕
- 3) 『信州大学学生の英語能力と学習環境：高校生との比較から』（信州大学教育システム研究開発センター，平成14年1月，97頁）〔共著〕
- 4) 『聖書の英語とヘブライ語法』（英潮社，平成10年10月，365頁）〔単著〕
- 5) 『聖書の英語』（英潮社，平成7年12月，273頁）〔単著〕
- 6) 『Communicative Adventures in Britain』（教養英語用テキスト）（信州大学教育システム研究開発センター，平成10年3月，61頁）〔共著〕

② 主要論文（44編）

- 1) “Hebraisms in English Bibles” (J. Fisiak ed., *Studies in English Medieval Language and Literature*. Frankfurt am Main: Peter Lang. Vol.22, 平成20年12月, pp.3-16)〔単著〕
- 2) 「旧約聖書における単発的メタファ表現と概念メタファ：表現の間隙を埋めるものはなにか」（『人文科学論集』42号，信州大学，平成20年3月，pp.83-94）〔共著〕
- 3) 「法人化前と後の信州大学のSDとFDの制度化と質的保証」（『FDの制度化と質的保証』後編〔高等教育研究叢書〕第92巻，広島大学高等教育研究開発センター，平成19年3月，pp.27-32）〔単著〕
- 4) 「内発的動機付けを高める大学生の英語教育のあり方：高大連携を用いた取り組み」（『人文科学論集』41号，信州大学，平成19年3月，pp.27-22）〔共著〕
- 5) 「メタファーとメトニミの相互作用：聖書を読み解く認知メカニズム」（『人文科学論集』41号，信州大学，平成19年3月，pp.1-8）〔共著〕
- 6) 「地域価値を高める双方向高大連携の試み」（『地域ブランド研究』vol.2，地域ブランド研究会，平成18年12月，pp.145-168）〔共著〕
- 7) 「聖書のメタファー分析」（『人文科学論集』40号，信州大学，平成18年3月，pp.27-44）〔共著〕
- 8) 「共通教育における受講者数と単位取得率 一適性受講者数算出に向けての基礎研究」（『大学論集』第37集，広島大学高等教育研究開発センター，平成17年3月，pp.183-194）〔共著〕

- 9) 「Tyndale's Penateuchにおける原典の語順の受容について—Genesisを主資料とした調査」(『人文科学論集』38号, 信州大学, 平成16年3月, pp.1-10) [単著]
- 10) 「県下の高校生, 信州大学学生, 信州大学英語担当教官の英語教育に対する意識」(『教育システム研究開発センター紀要』第38号, 信州大学, 平成15年3月, pp.63-73) [共著]
- 11) 「信大生の英語力について」(『教育システム研究開発センター紀要』第8号, 信州大学, 平成14年3月, pp.67-84) [共著]
- 12) 「メンタル・ヘルスの相談事例から見る学生の抱える諸問題」(『教育システム研究開発センター紀要』第8号, 信州大学, 平成14年3月, pp.3-17) [共著]
- 13) 「高等学校との連携による信州大学の英語教育のシステムとカリキュラム改善の取り組み」(『教育システム研究開発センター紀要』第7号, 信州大学, 平成13年3月, pp.41-43) [共著]
- 14) 「アメリカの入試制度—University of Utahを中心に」(『現代アメリカ研究』, 信州大学教育学部, 平成12年3月, pp.135-142) [単著]
- 15) 「言語資料としての聖書の英語」(『人文科学論集』33号, 信州大学, 平成11年3月, pp.115-126) [単著]
- 16) 「聖書の英訳からみた否定」(『言語の深層を探ねて』, 英潮社, 平成11年3月, pp.559-569) [単著]
- 17) “Parallelisms in the Hebrew Bible and Their Translations in the Authorized Version” (『内陸地域文化の人文科学的研究II』 [文部省特定研究成果報告書], 平成7年3月, pp.196-174) [単著]
- 18) “The Interrogative Pronouns what and who: Methods of translating the Latin, Greek and Hebrew counterparts” (*Studies in Humanities*, No.28, Shinshu University, 平成7年3月, pp.119-130) [単著]
- 19) 「聖書の翻訳伝統と聖書の英語」(『英語青年』第138巻4号, 研究者, 平成4年7月, pp.164-166) [単著]
- 20) 「原典からみた英訳聖書の there 構文」(『言葉の構造と歴史』英潮社, 平成3年12月, pp.310-321) [単著]
- 21) 「聖書ヘブライ語からみた英訳聖書の命令文」(『現代英語学の諸相』, 開拓社, 平成3年7月, pp.131-148) [単著]
- 22) 「パソコンによる自家製コンコードダンスと聖書英語の研究」(『英語英米文学とコンピュータ』, 英潮社, 平成3年3月, pp.114-129) [単著]
- 23) 「進行形の発達について: 受動形及び完了形との比較論的観点から」(『人文科学論集』24巻, 信州大学, 平成2年3月, pp.69-79) [単著]
- 24) 「聖書の翻訳と原典の言語構造について」(『国際化と日本文化』 [文部省特定研究成果報告書], 平成2年3月, pp.7-21) [単著]
- 25) 「聖書英語の二面性について」(『英語青年』第136巻12号, 研究社, 平成元年3月, pp.587-589) [単著]
- 26) 「聖書ヘブライ語から見た英訳聖書の進行形」(『人文科学論集』23号, 信州大学, 平成

- 元年3月, pp.131-148)〔单著〕
- 27) 「聖書英語の基数詞表現：中間体を中心に」(『近代英語研究』第4巻, 近代英語協会, 昭和63年3月, pp.69-82)〔单著〕
- 28) 「聖書英語とヘブライ語法受容について」(『人文科学論集』22号, 信州大学, 昭和62年3月, pp.61-82)〔单著〕
- 29) 「adam と man と Adam について：AV の英語訳を資料として」(『老いとその意味』[文部省特定研究報成果報告書], 昭和62年3月, pp.5-13)〔单著〕
- 30) 「AV の“OF-Genitive”とヘブライ語法」(『人文科学論集』21号, 信州大学, 昭和61年3月, pp.47-54)〔单著〕
- 31) 「聖書英語と同族目的語：to die a/the (specified) death 場合」(『人文科学論集』20号, 信州大学, 昭和60年12月, pp.61-68)〔单著〕
- 32) 「To die the death の起源について」(『英文學研究』第62巻2号, 日本英文学会, 昭和60年12月, pp.254-273)〔单著〕
- 33) 「“It comes to pass that...”とヘブライ語法」(『中部英文学』第7巻, 中部英文学会, 昭和60年10月, pp.49-66)〔单著〕
- 34) 「ヘブライ語接頭辞 wə- と AV の and 畳用について」(『人文科学論集』19号, 信州大学, 昭和60年3月, pp.47-53)〔单著〕
- 35) 「ヨーロッパとオリエントの言語接触：英語と古代ヘブライとの場合」(『文化受容とその展開—言語・文学・思想・歴史における—』[文部省特定研究成果報告書], 昭和60年3月, pp.113-122)〔单著〕
- 36) “The Influence of Hebrew Pronominal Usages on the English Bible” (『人文科学論集』18号, 信州大学, 昭和59年3月, pp.39-60)〔单著〕
- 37) “The Influence of the Hebrew Infinitive on the English Biblical Translations” (『人文科学論集』17号, 信州大学, 昭和58年3月, pp.93-114)〔单著〕
- 38) “Hebrew Influence on the English Cognate Object” (*Studies in Linguistic Change : in honourof Kazuo Araki*. 研究社, 昭和57年10月, pp.155-168)〔单著〕
- 39) “The Gerund with Its Object in the 1611 Translation of the New Testament” (*Studies in Language and Culture*, vol.4, pt.5, Hiroshima University, 昭和54年3月, pp.125-142)〔单著〕
- 40) “On the Introductory There in the Authorized Version (Four Gospels)” (*Studies in Language and Culture*, vol.3, pt.5, Hiroshima University, 昭和53年3月, pp.61-72)〔单著〕
- 41) “Inversion in the 1611 Translation of the Four Gospels” (*Hiroshima Studies in English Language and Literature*, vol.22, pts.1-2, Hiroshima University, 昭和52年4月, pp.17-31)〔单著〕
- 42) 「欽定訳聖書の進行形」(『言語文化研究』第2巻5号, 広島大学, 昭和52年3月, pp.95-116)〔单著〕
- 43) 「17世紀前半の散文における進行形の調査—Diaries, Letters, Essays における進行形の使用頻度」(『英語英文學研究』第20巻2号, 広島大学英文学会, 昭和52年3月, pp.25

-40) [単著]

- 44) 「英訳聖書における進行形の発達」(IVY, Vol. Ⅲ, 名古屋大学英文学, 昭和48年4月, pp.52-78) [単著]

③ その他 (7編)

- 1) 「大学研究の拠点：信州大学教育システム研究開発センターの活動と課題」(『IDE：現代の高等教育』No.443, 民主教育協会, 平成14年10月, pp.65-75) [単著]
- 2) 「聖書とアルファベットと英語」(『進取創造』No.105, 長野県経営者協会, 平成9年9月, pp.16-19) [単著]
- 3) 「英語を教えること」(『知のプリズム：信州大学・創造の現場から』, 信越放送, 平成8年10月, pp.167-171) [単著]
- 4) 「古代ベルシャ起源の君主の we」(『英語青年』第138巻, 研究社, 12号, 平成5年3月, p.644) [単著]
- 5) 荒木一夫・安井稔編『現代英文法辞典』(三省堂, 平成4年7月) [項目分担執筆]
- 6) 「Genesis (7:2) の邦訳について」(『英語青年』第128巻10号, 研究社, 昭和58年3月) [単著]
- 7) 「小児語 ta について」(『英語青年』第126巻10号, 研究社, 昭和56年1月, p.548) [単著]

④ 書評 (3編)

- 1) 書評：長嶋大典著『英訳聖書の歴史』(『週刊読書人』第1746号, 昭和63年8月, p.5) [単著]
- 2) 書評：Oshitari, K., et al. (eds.) *Philologia Anglica: Essays Presented to Professor Yoshio Terasawa on the Occasion of his Sixtieth Birthday*, 1988 (*Studies in English Literature*, English Number 1990, 日本英文学会, 平成2年3月, pp.169-177) [単著]
- 3) 書評：R.M. Liuzza ed. *The Old English Version of the Gospels, Vol.I : Text and Introduction, Vol. II : Notes and Glossary*, EETS, O.S. 304 and 314, Oxford University Press, 1994 and 2000 (*Studies in Medieval English Language and Literature*, No.17, 日本中世英語英文学会, 平成14年8月, pp.93-101) [単著]

⑤ 口頭発表

- 1) 「17世紀前半の進行形について」(中部英文学会 第27回大会, 昭和49年10月)
- 2) 「聖書の英語とヘブライ語法について」(日本英語学会 第4回全国大会シンポジウム「外国語法の受容と変容」, 昭和61年11月)
- 3) 「“He is being a bore” 型進行形の歴史」(近代英語協会 第6回全国大会シンポジウム「近代英語における進行形の発達」, 昭和63年5月)
- 4) “Hebrew Influence on Biblical English” (Research Society, St. Edmund's College, Cambridge, 平成3年9月)
- 5) 「言語資料としての聖書の英語」(近代英語協会 第15回全国大会シンポジウム「近代

英語統語論研究の現状と課題」, 平成10年5月)

6) 「中英語と近代英語の接続について：これまでの見方について」(近代英語協会 第25回シンポジウム「中英語と近代英語の接続について」平成18年5月

7) “Hebrew Influence on English Bibles” (The Society of Historical English Language and Linguistics, International Conference, 平成19年9月)

⑥ 学会活動・社会貢献

昭和45年4月 日本英文学会会員 (平成18年10月より中部支部長〔平成21年3月まで〕)

昭和45年4月 中部英文学会会員 (平成元年10月より理事, 平成18年10月より会長〔平成21年3月まで〕)

昭和59年4月 近代英語協会会員 (平成19年5月より理事)

昭和61年10月 日本英語学会会員 (平成元年10月より18年10月まで評議員)

平成元年10月 中部英文学会理事 (平成21年3月まで)

平成8年4月 財団法人長野県国際交流推進協会評議員 (平成12年3月まで)

平成15年11月 独立行政法人国立病院機構長長野病院倫理委員会委員 (平成21年3月まで)

平成16年4月 広島大学客員教授 (高等教育研究開発センター) (平成21年3月まで)

平成17年5月 長野県松本県ヶ丘高等学校評議員 (平成19年3月まで)

⑦ 主な学内役職

平成6年4月—平成8年4月 評議員

平成8年4月—平成9年3月 学生部長・学長補佐

平成9年4月—平成11年6月 副学長

平成13年4月—平成15年3月 教育システム研究開発センター長・評議員

平成15年6月—平成17年6月 学長特別補佐

平成16年4月—平成19年9月 副学長

平成19年10月—平成20年9月 学長補佐